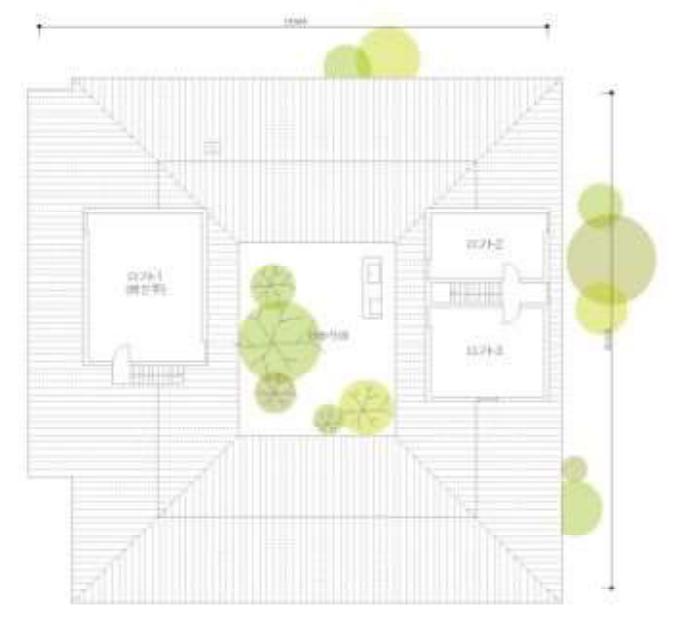
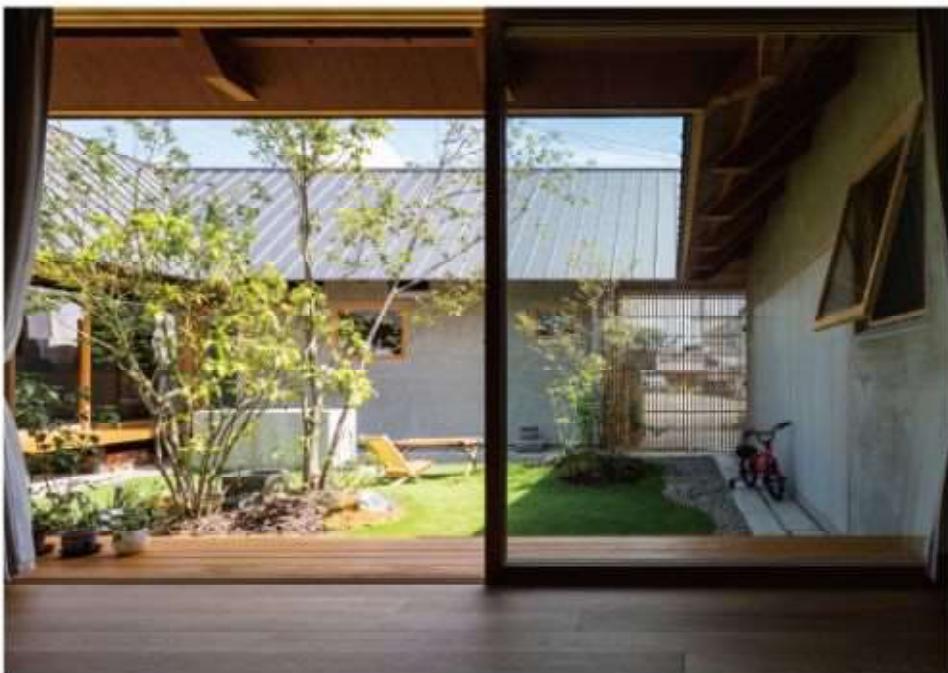


ひかり庭のコートハウス

~ 10m×8.5m の大きな中庭のある二世帯住宅 ~





設計者の従弟である建主(33歳)と妻(33歳)+子供2人(8歳+6歳)の世帯[若世帯]と母(63歳)+祖母(92歳)の住む世帯[親世帯]の家族6人で4世代の二世帯住宅の計画である。敷地は静岡県の志太平野北部の旧東海道の横内地域にあり、この場所は昔から宿場町として栄えていた。一年を通じて比較的温暖で長閑な住宅地の一角に位置している。祖母とは今生き祖父が1958年にこの土地に家を建ててから65年が経過している。増改築を繰り返し老朽化した元の母屋は耐震性も乏しく、母と祖母の二人暮らしには広がり、住いの手の変化に対応ができずにいた。子供たちが小学校に入学する前までにこの敷地で同居することを決め、家づくりがスタートした。老朽化した母屋は取り壊し、200坪(664.78m²)という広大な敷地を活かした住宅の設計を、従弟一家の事とこの土地の事を熟知している私(当時、設計事務所を設立直後)に依頼していた。[アウトドア好きで子供たちを庭で安心して遊べさせたい世帯]と[高齢でバリアフリーを求める親世帯]のことを考慮すると2階に居間が設けるような住宅は考えられて当然的に平屋のプランニングを繰り返し検討した。膨大なプランニングスタディの中で、敷地に対して10m×8.6mの広い中庭を確保し、間口4.55mのコートハウスとする案が、すべての居室が中庭に面し、通風・採光を確保することができ、さらに接道面の車の駐車や敷地向いのお店の事を考慮すると一番しつくりだ。また、寝室やWICの上部には床下収納、小屋裏空間を子供部屋や姉妹家族が帰郷した際の客室として有効活用し、各部屋の気積をコントロールすることで効率の良い温熱環境を実現している。住むの真ん中で大きな中庭という外部環境を設けた事で、自宅で気軽に友人や親戚を招いてBBQを楽しんだり、子供たちが中庭で木登りや友達と遊んでいるのを横目に、ダイニングでママ友がお茶を楽しんだり、普段の何気ない日常にこの大きな中庭が楽しさと健やかさを与えてくれている。さらに、中庭は親世帯と子世帯をよく緩やかに繋げる受け皿としての役も担っている。結果的に新型コロナの影響で外出自粛しなければならない期間では、自宅に居ながら豊かで生き生きとした日常生活を実現できていた。新型コロナが落ち着いた今日も大きな中庭のある住宅を大いに楽しんでくれている。

工事状況写



先行して床下地を造り現場を加工場として利用し、大きな化粧の鋲首梁一つ一つ丁寧に手加工している様子。鋲首梁の頂部は、ホームコネクターという隠蔽金物を使用することで、金物の見えない木組みの美しい屋根組が実現できた。



現場にて先行で手加工した扱首梁を一つ一つ丁寧に桁に架けている様子。屋根の小屋梁や束、棟等がない為、通りの確認と、建て起し確認は特に慎重に行なった。

建主が経営するローストチキンのお店の敷地

